

# メディカル・プロフェッショナルリズムVI

科目責任者 種 市 洋  
学年・学期 6 学年・1 学期

## I. 前 文

医学教育モデル・コア・カリキュラムでは、医師として求められる基本的な資質・能力の最上位としてプロフェッショナルリズムがあげられています。プロフェッショナルリズムとは、人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたりながら、医師としての道を究めていくこととされ、そのためには社会から信頼され、思いやりを持って他者に接する態度、医師に相応しい教養や倫理観等を身につける必要があります。そのために獨協医科大学のプロフェッショナルリズム教育プログラムとして順次性を持った6年一貫のD-Mepを開設しました。

D-Mep VIでは、最終学年として、医療現場に出た際に直面することが予想される諸問題について学び、理解することを目指します。

## II. 担当教員

福 田 宏 嗣	(副院長, 心臓・血管外科)
成 瀬 勝 彦	(産婦人科)
小 飼 貴 彦	(ゲノム診断・臨床検査医学)
千 田 雅 之	(呼吸器外科)
北 村 聖	(教育支援センター)

## III. 一般学習目標

昨今では、働き方改革が提唱され、医師も労働基準法に則って勤務し、その中で医療現場の諸問題を解決することが求められている。授業では医師の労働管理について学ぶとともに、ストレスマネジメントについても理解する。遺伝子解析技術の進歩に伴い、遺伝性疾患の出生前診断や発症前診断が可能となってきているが、一方で生命の選別などの倫理的問題、患者や家族に与える影響、社会的影響についても深く考慮する必要がある。授業では遺伝カウンセリングとは何か、どのような場合に実施するか、求められるスキルなどについて理解する。

臓器移植とその前提となる脳死判定についても今後増加していくことが考えられ、脳死判定とは何か、望ましい臓器移植のあり方とは何かについても討論、検討して理解する。

## IV. 学修の到達目標

労働基準法について理解する。

医師の労働基準について理解し、労働管理の必要性を理解する。

労働とストレスの関係について理解する。

ストレスマネジメントの必要性とその方法について理解する。

遺伝カウンセリングとは何かについて理解する。

遺伝カウンセリングが必要な状況を考え、どのように実施することが望ましいか討論、理解する。また遺伝性疾患と診断された患者のケアについても理解する。

脳死判定の実際を学び、正しい脳死判定の行い方を理解する。

臓器移植について現場医師から学び、臓器移植の現実を理解する。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1 : 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。))

2 : ディスカッション, デイバート 3 : グループワーク 4 : 実習, フィールドワーク 5 : プレゼンテーション

## 6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	7	3	月	1	医師の労務管理と働き方	福 田 宏 嗣	1
2		3	月	2	医師の働き方改革について (TBL)	福 田 宏 嗣	3
3		4	火	1	遺伝性疾患への対応・ロールプレイ	小 成 貴 彦 小 成 瀬 勝 彦	1, 3
4		4	火	2	遺伝性疾患への対応・ロールプレイ	小 成 貴 彦 小 成 瀬 勝 彦	3
5		4	火	3	遺伝性疾患への対応・ロールプレイ	小 成 貴 彦 小 成 瀬 勝 彦	3
6		4	火	4	遺伝性疾患への対応・ロールプレイ	小 成 貴 彦 小 成 瀬 勝 彦	3
7		5	水	1	脳死判定・脳死移植 概論	千 田 雅 之	1
8		5	水	2	脳死ドナー家族への対応・ロールプレイ	千 田 雅 之 北 村 之 聖	3
9		5	水	3	脳死ドナー家族への対応・ロールプレイ	千 田 雅 之 北 村 之 聖	3

## &lt;備考&gt;

## 授業内容

第1回：「医師の労務管理と働き方」第2回：「医師の働き方改革について」

- ・現在病院で行っている労務管理や、望ましい医師の働き方、今度の働き方改革に伴う労働時間の取り扱いについて理解する。
- ・医師が受けるストレスにはどのようなものがあるか、そのマネジメントはどのように行われているかについて理解する。また医師の「働き方改革」がどのように進められているかを理解する。

第3, 4, 5, 6回「遺伝性疾患への対応, ロールプレイ」

遺伝性疾患に対する出生前診断や発症前診断について理解する。第3回の講義では特別講師の招聘も予定している。また第4, 5, 6回の演習では院内の臨床遺伝専門医・認定遺伝カウンセラー・認定遺伝看護師が参加して、遺伝性疾患の診断や説明について学生が患者役、医師役となってロールプレイを行う。

第7回「脳死判定・脳死移植 概論」

脳死判定および脳死移植医療とはどのようなものかについて理解する。またどのような流れで実施され、どのような問題点があるのかについて理解する。演習では講義を踏まえて脳死判定に至るまでのロールプレイを行う。

第8, 9回「脳死ドナー家族への対応, ロールプレイ」

臨床的脳死と考える症例が出現した際に、その家族は様々な葛藤をかかえる。脳死ドナー家族への対応について、ロールプレイを行なって理解する。

## VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

「医師の労務管理と働き方」「医師の働き方改革について」「遺伝性疾患への対応」「脳死判定・脳死移植」4項目それぞれについてレポートを提出する (各20点)。これに遺伝性疾患ロールプレイの積極性、態度、内容についての評価 (20点) を加え、計100点満点で評価する。

## VII. 教科書・参考図書・A V資料

WHO患者安全カリキュラムガイド多職種版について | 東京医科大学 医学教育学分野 (tokyo-med.ac.jp)

<http://meded.tokyo-med.ac.jp/who患者安全カリキュラムガイド多職種版について/>

WHO患者安全カリキュラムガイド：相馬孝博 メディカ出版

VIII. 質問への対応方法

授業時間内に直接質問する。時間外については、担当教官に確認すること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP    ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医 学 知 識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨 床 能 力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能 動 的 学 修 能 力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社 会 的 視 野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	◎
人 間 性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

担当教員から口頭試問等でフィードバックを行う。

なお、各基盤科目のフィードバックの詳細な方法については、講義時に担当教員より説明する。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：シラバスを参考に講義の要点を確認すること。（所要時間の目安30分）

事後学習：講義の内容をまとめること。（所要時間の目安30分）

なお、各基盤科目の詳細な事前学修・事後学修については、各担当教員により説明する。

XII. コアカリ記号・番号

PR-01 信頼 PR-02 思いやり PR-03 教養 PR-04 生命倫理

CS05-01 医療の質向上 CS05-02 医療従事者の健康管理

PS03-01 遺伝医療・ゲノム医療

CM-01 患者に接する言葉遣い・態度・身だしなみ・配慮

CM-02 患者の立場の尊重と苦痛への配慮

SO-03-01 死と法